

大阪府・市などの将来像をめぐってかつてないよつなどジョンの競い合いが巻き起こっている。振り返れば大阪は天下の台所、東洋のマン彻スター、商都、工都と日本唯一のラベリングを冠し続けてきた。その意味では長らく都市間競争の頂点に立つ格を有した栄光に浴していた。そうした格を喪失したかのようないま大阪にとって、競い合いの議論は、都市を足元から見直す絶好のチャンスでもある。同時に相当な発想の転換が必要とされよう。特に大阪では、経済的な沈滞が多くの都市問題を生み出し、セイフティネットの機能不全とボーメレスや生活保護の問題は、日本でも一番深刻である。厄介な都市経営との格闘、そして困難な都市現象に、国際的に最も早く遭遇している都市の一つが大阪である。こうした疲弊を逆手にむしろ跳躍台として、都市の再興

をめぐってかつてないよつなどジョンの競い合いが巻き起こっている。振り返れば大阪は天下の台所、東洋のマン彻

スター、商都、工都と日本

唯一のラベリングを冠し続け

てきた。その意味では長らく

都市間競争の頂点に立つ格を

有した栄光に浴していた。

そうした格を喪失したかの

ようないま大阪にとって、競い合

いの議論は、都市を足元から

見直す絶好のチャンスでもあ

る。同時に相当な発想の転換

が必要とされよう。特に大阪

では、経済的な沈滞が多く

の都市問題を生み出し、セイフ

ティネットの機能不全とボーメ

レスや生活保護の問題は、

日本でも一番深刻である。

厄介な都市経営との格闘、

そして困難な都市現象に、国

際的に最も早く遭遇している

都市の一つが大阪である。

こうした疲弊を逆手にむし

ろ跳躍台として、都市の再興

## 水内 俊雄

の仕組みづくりをボトムアップ型で取り組むことは、新しい都市経営のあり方として価値のある試みとなる。

鍵を握るのは、税収にもとづく過度に肥大化した歳出

を、徐々に知力や人力を養う

社会関係資本に循環させてゆく仕組みづくりだ。NGOや

日本でもよつやく、そつし

た資金が公的基金から第三の

セクターに投入されだし、社

会関係資本が活性化、真の意

思が頭脳が集中していたからでもある。

日本でもよつやく、そつし